

【5年生】高齢者疑似体験で育む「思いやり」の心

5年生は6月17日・18日に「総合的な学習の時間」の福祉の学習で、高齢者疑似体験を行いました。ヘッドホンや視界ゴーグル、背曲げ用エプロン、膝・肘サポーター、手首おもり、軍手などを装着して、折り紙折りや階段の昇降、財布から指定金額の取り出し、本の低い棚・高い棚からの出し入れといった動作に挑戦しました。子どもたちは、指先の感覚が鈍ることや視界が狭まること、身体が思うように動かせないもどかしさを肌で感じ、大変さを実感していました。

この体験を通して、「作業しやすい環境を整える」「声かけや手助けを忘れない」など、高齢者への具体的な心遣いについて考えることができました。家庭でもぜひ今回の気づきを話題にさせていただき、ご家庭での温かいサポートにつなげていただければ幸いです。

